

《短報》

山口県宇部市におけるシラヌイハゼの記録

川崎颯翔

〒755-0076 山口県宇部市大小路一丁目6番20-5

はじめに

シラヌイハゼ *Silhouettea dotui* (Takagi, 1957) は青森県から鹿児島県本土にかけてと台湾から記録のある小型ハゼ科魚類(是枝・本村, 2025)であり, 主に沿岸の砂地に生息する. これまで鹿児島県(是枝・本村, 2025)や神奈川県(林・工藤, 1993)などから分布記録や生息情報の報告があるが, 山口県においては記録がなかった.

今回, 周防灘に面する山口県宇部市沿岸において本種の生息を確認したので, 山口県における初記録として報告する.

記 録

2025年6月28日に岐波海水浴場(山口県宇部市東岐波波字)の岸より約700m沖の地点において筆者, 川崎瑞江, 川崎悠弥の3名によるタモ網での採集を行った結果, 約20個体を採集し, 約30個体を目視で確認した. その内, 5個体をエタノール液浸標本とし, 筆者が保管した.

今回採集した個体は項部に目立った被鱗帯が無いこと背鰭前方鱗数が0であること, 腹鰭前方域が被鱗することなどが明仁ら(2013)の示した本種の特徴と一致したため本種と同定した.

採集した全個体が性成熟しており, 雄は頭部が黒色の婚姻色(道津, 1958)を呈し(図1), 雌の腹部は卵が透けてやや黄色く見えた(図2).

岐波海水浴場(通称: キワ・ラ・ビーチ)は山口県宇部市東部に位置する遠浅の前浜干潟であり, 本種の生息地として知られる大分県中津海岸(中津市小祝新町)(本村, 2025)と周防灘を挟んだ対岸にあたる.

今回本種の生息が確認された全域にわたってリッジ-ラネル構造が形成されており, 本種は沖合のやや大きなラネル中にまとまって確認された. 採集を行った地点は主に大潮の干潮時に歩いて行ける最も沖のラネルであり, ここから約20mほど岸寄りのラネル中においても雄3個体を採集した. 水深は最大で40cm程度, 底質は目の細かい砂底であった. 同所的にはヒメハゼ *Favonigobius gymnauchen* (Bleeker, 1860) やサンゴタツ *Hippocampus mohnikei* (Bleeker, 1854), クサフグ *Takifugu albopumbeus* (Richardson, 1845), ボラ *Mugil cephalus*



図1. シラヌイハゼ雄個体(山口県宇部市産).



図2. シラヌイハゼ雌個体(山口県宇部市産).

cephalus (Linnaeus, 1758) などが確認され、採集地点はシラヌイハゼが優占種であったが岸に近づくにつれヒメハゼが優占した。

今回、是枝・本村 (2025) に示される溝構造を持った産卵巣は確認されず、放卵後とみられる雌個体も採集されなかったことから山口県瀬戸内海側における本種の産卵時期は6月下旬以降であると推測された。

謝 辞

報告にあたり、山口県における本種の出現記録の有無についての確認をしてくださった山口県水産研究センターの大淵浩志氏、日々の採集において資金面での補助や現地までの運転などをしてくださっている川崎瑞江氏に厚くお礼を申し上げる。

引用文献

- 明仁・坂本 勝一・池田 祐二・藍澤 正宏 (2013) 「ハゼ亜目・日本産魚類検索 全種の同定 第三版」, (編) 中坊 徹次・東海大学出版会, 秦野.
- 道津喜衛 (1958) シラヌヒハゼの生活史. 九州大学農学部学芸雑誌, (16): 427–432.
- 林 公義・工藤孝浩 (1993) 相模湾から初記録のシラヌイハゼ. 神奈川自然史資料, (14): 39–42.
- 河野光久・土井啓行・堀 成夫 (2011) 山口県日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告, (9): 29–64.
- 河野光久・國森拓也・馬場俊典 (2018) 山口県瀬戸内海産魚類目録 (予報). 山口県水産研究センター研究報告, (15): 35–43.
- 是枝伶旺・本村浩之 (2025) 鹿児島県南さつま市大浦川河口におけるシラヌイハゼの出現状況と本種の産卵巣周辺に確認された溝構造. 水生動物, (2025): 1–7.
- 本村浩之 (2025) 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準と名と学名. Online ver. 35. <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html>